2022,8.17, vol.10

こども食堂 北海道ネットワーク 通信

すごしやすい夏ですが、コロナ陽性者が激増する事態となり、物価の高騰やボランティアさんの確保など、お困りだろうなと心配しています。そんな時はお近くの運営者さん同士、連絡を取り合い、助け合えるといいなあと願っています。

"函館東こどもサポートクラブ"訪問

7月16日に「函館東こどもサポートクラブ」(函館市松風町)をお訪ねし、荒木明美さんにお話を伺いました。荒木さんは函館市の市議会議員(無所属)をされており、次々と新しいアイディアを実現してきた敏腕プロデューサーという印

(荒木明美さん・左と代表・前田貴子さん)

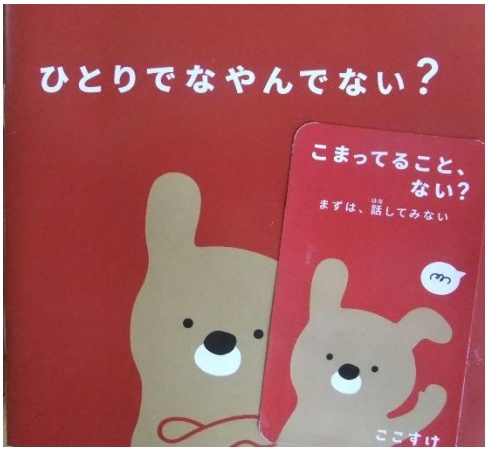
象の方です。2016年5月、函館での子ども食堂「はこだてこども食堂～作ってたべよ、いっしょにたべよ～」("八百屋すず辰"主宰)、続く2017年4月には小学校の家庭科室を利用しての「ともだち食堂」立ち上げに関わりました。両食堂とも、基本にこども達は調理に関わり「いざとなったら、自分でご飯を作って生きて行く」の心意気と技術を身につけてもらおうという考えを持っています。「ともだち食堂」はスタッフが産科・小児科医をはじめとする医療従事者であるため、コロナ感染を警戒し、現在は休止中とのこと。と、ここまでは荒木さん個人としてのサポートでしたが、2020年の2月に函館東ライオンズクラブの支部として、函館東こどもサポートクラブを誕生させました。子ども食堂がないエリアに子ども食堂を立ち上げていこう、地域のお寺、教会など、何かあった時には駆け込める関係作りもしていこうという計画でしたが、この頃はコロナ禍で学校の休校が始まった時期であり、市の子ども未来部と話し合い、市内のひとり親世帯を対象にオンラインアンケートを実施したところ、45．2%の方が「食費を切り詰めている」と回答しました。そこで、今は子ども食堂よりもひとり親家庭に対する食料支援のほうが大事だと判断、市の協力を得て、市内3600世帯のひとり親家庭の方(児童扶養手当受給世帯)に「函館にもフードバンクあります！食料品を無料配布します！」というチラシを作り、送ってもらいました。以来、大学生への支援を含めた数度の単発の食料支援と、2020年8月からは毎月一度、20家庭へ食料支援を継続中です。

今後は、毎月の食料支援は市・子ども未来部(ひとり親家庭サポート・ステーション)に一部委託する形で継続するが、サポートクラブとしては「経験の手助け」にシフトチェンジして行きたいと考えているそうです。ひとり親家庭では、キャン

プ、アウトドアなどの屋外経験ができないという声があり、サポートクラブの現在の代表である前田貴子さん(ヨルダンに水泳の指導者として在住した経験あり)は身体を使う経験の楽しさ、大事さを自然の中の遊びを通して知ってもらえるような活動をしていきたいそうです。翌17日は、七飯町の素敵なお宅でのイベントに参加させていただきました。広大な敷地に、野菜畑、ニワトリ12羽の鶏小屋、養蜂箱などがあります。テントが幾つも張られ、石窯での本格ピザ作り、紙を折って絵具で染める「折染め」、ハチミツ絞り体験もありました。あいにくの雨でしたが、子どもたちは大喜び、またお母さんたちも「ふだん喋る相手がいなくて淋しいので、こうした機会はほんとに有難いです」とおっしゃっていました。今後の動きも目が離せない函館東こどもサポートクラブでした。

今回はNPO法人　ここすけ（子ども・高齢者・助っ人センター）の代表でいらっしゃる相内俊一さんにご寄稿いただきました。先にポスターなど、お送りしたと思いますが、今回は相内さんの思いにじかに触れていただこうという企画です。相内さんは「こどもそうだん　ここすけライン　LINE」と「でんわでそうだん　080－8052－1315」をされています。人間は、自分を心配してくれる知らない誰かのほうが話しやすいという時があるのかも知れません。問題が複雑だと、専門家につなげていただけるそうです。もちろん、道内全域が対応範囲です。悩んでいそうだな・・・でも話してくれない、という子どもに出会ったときに、ここすけをぜひ紹介してあげてください。

＊ここすけ　さんからのお便り＊



（以前、お送りした冊子とカード）

＊ムーミンの物語は私の愛読書のひとつです。9 冊のうちどの巻も心に響きますが、今回は「ムーミン谷の仲間たち」の中の、「目に見えない子」という話をとりあげます。ムーミンの物語では、ムーミントロール、ムーミンママ、ムーミンパパ、ちびのミイ、スナフキンなど多くの主役が活躍しますが、この話では、ニンニという女の子とムーミンママ、それにちびのミイが中心です。

ニンニはおばさんからひどくおどされ、皮肉を言われ続けるうちに、言い返す気持ちも自分自身を保つ気力も失い、姿が見えなくなってしまいました。幸い、ニンニはムーミンの家に引き取られます。ムーミンの家族やミイは、ニンニのことを心配しますが、ムーミンママは特別扱いをしません。ひとりの人間として、自分たちと全く同じに彼女の存在を尊重するのです。ありのままの姿を受け入れられたニンニは、次第に自分自身を取り戻し、つま先から少しずつ、ついには全身の姿を現しました。そして、ムーミンママを助けようと自発的な勇気ある行動に出ることができたのです。オトナたちは、子どもたちを自分の理想の型にはめ、子どもたちを自己主張や自己表現ができない、「目に見えない子」にすることがあります。それも「善意」から。子どもたちが、生き生きと自分を表現し、「目に見える子」、「姿を見せる子」でいられるにはどうすればよいか。オトナたちが、子どもたちの声を自分たちのモノサシで判断したり評価してしまわず、子どもたちのモノサシを貸してもらって理解しようとするのです。子どもたちが子ども食堂に来るのは、きっとそういうオトナがいて自分たちの声を聴き、安心して自己主張できる場所だと思えるからですね。

最後にちびのミイからのニンニへのきつい励ましの言葉を。「あのさ、たたかうってことをおぼえないかぎり、あんたは自分の顔を持てるわけないわ。」。たたかうためのエンパワーメントも子ども食堂のメニューにお願いします。

NPO法人ここすけ代表　相内俊一

事務局から　今月の事務局の仕事の一つに新パンフレットの作成がありました。旧パンフレットは 2021 年 3 月に 1000 部作成しましたが、早くもなくなりましたので新しい仲間の紹介含めて作成し直しました。考えてみますと、NWに入会する子ども食堂は2017年当時の約 15 団体から 105 団体へと順調に増え、私たち事務局はサポーターとしてのネットワークの働きをより広く強固なものにしなければ、と試行錯誤を重ねてきた5年でもありました。そんな中、協力・協賛企業も約 15 社から約 65 社へと増え、さまざまなご寄付をいただけるようになったことは、大変、心励まされる、有難いことでした。むすびえ交流会を通し、北海道ネットワークの取り組みは他県に比較しても非常に大きなものであることがわかっています。感謝申し上げたいと思います。コロナ禍の中、全体での学習会を開くことができなかったわけですが、10月1日(土)に上田文雄様(元札幌市長、子どもの権利条例を制定)をお迎えして、学習会を開く予定です。皆さまのご参加をお待ちいたします。

（編集　飯田澄子）

こども食堂
北海道ネットワーク

〒003-0803
北海道札幌市白石区菊水三条4丁目1-3
こくみん共済coop北海道会館4階
☎ 011-841-8601
https:// ks-hokkaido.net
info@ks-hokkaido.net